

ホームページリニューアルOPENしました♪



このたび、当協議会のホームページがリニューアルしました！
「これから手帳」や活用マニュアル、過去の広報誌もダウンロードができます。



新規ホームページ URL <https://shienkyou.org>

CONTENTS

- 巻頭言 P02
- 活動報告 坂町地域包括支援センター P03
- 学びのページ 広島県国民健康保険団体連合会 P06
- 私のまわりの輝きさん 民生委員児童委員 三次さん P08
- 研修報告「生活支援体制整備事業研修会」 P10
- 特集ページ 「これから手帳」を使用した大学4年生の感想 P11

巻頭言



広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会
 広報委員会副委員長
永見 悠騎

広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会の広報委員会で副委員長を務めております、永見悠騎と申します。このたび、広報誌の巻頭言を執筆する機会をいただき、大変光栄に存じます。

本協議会は、広島県内の地域包括ケアシステムの推進を目的として、医療・介護・福祉・住まい・行政などの関係者が連携・協働し、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、さまざまな取り組みを行っております。

近年、高齢化の進展や医療技術の高度化などにより、地域包括ケアシステムへのニーズはますます高まっております。本協議会としても、これらのニーズに応えるため、新たな取り組みを積極的に展開しております。

その一つが、ホームページのリニューアルです。これまでのホームページは、スマートフォンやタブレットからの閲覧に対応しておらず、情報更新もしづらいという課題がありました。

リニューアルしたホームページでは、以下の内容を充実させました。

- 本協議会の活動内容
- 研修または地域包括ケア関連等のニュースやイベント情報発信
- 在宅療養や介護に関する相談窓口
- その他、今後みなさまから様々なご意見をいただき、より充実したホームページに更新してまいります。

また、ホームページをスマートフォンやタブレット端末でも閲覧できるようにすることで、より多くの方々にご利用いただけるようにしました。

今後も、ホームページを積極的に活用して、本協議会の取り組みや研修、地域包括ケアに関する情報発信を積極的に行うとともに、地域包括ケアシステムの推進に取り組んでまいります。本協議会の活動に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

リニューアルしたホームページは右記 QR コードをお手持ちのスマートフォンまたはタブレットのカメラで読み取りご確認ください。





地域支援に奔走! 坂町地域包括支援センター

【執筆者】坂町地域包括支援センター
木下 健一

坂町では広島県済生会が委託を受けて地域包括支援センターを運営しています。現在は7名の職員が介護予防、権利擁護、介護・医療・住民等、関係者のネットワークづくり、総合相談、また、平成30年7月に発生した西日本豪雨災害の被災者支援等を一体的に行っています。

坂町の人口は約1万3千人で中学校区は1つです。特徴として山間で傾斜地も多い旧来からの親戚関係が色濃く残るエリアと、平成後期に沿岸部の埋め立て開発などで誕生した新興住宅エリアが混在しています。

特に旧来エリアでは車の入れない所に建つ家も多く、加齢や障がい等で外出が難しくなる等の地域課題を抱えています。

住み慣れていたはずの自宅周辺の坂道も、加齢とともにその感じ方が変化していくというのは住民の方からよく伺うお話です。

▶坂道の多い地域を支える

当センターでは徹底したアウトリーチ（こちらから伺う）支援を心がけています。県内外の様々な場面で地域を奔走し支援している状況を伝えていたところ、令和3年12月には当会を通じて生命保険協会様から軽自動車寄贈も受けました。年間の相談件数は約3,000件で、狭い道でも進める車両は地域巡回や相談支援活動等において日々活躍し、欠かせない存在です。

▶被災者支援から地域づくり支援へ

坂町は平成30年西日本豪雨災害で町内の約3割が被害を受けました。被災後、一時避難生活先として仮設住宅が建設され、その後、災害公営住宅が建設されました。

住み慣れた地域を止む無く離れ、生活再建された方々の継続的な支援を実施しています。

再建先でも、再びつながることの大切さを学ぶ講座を開催し、住民組織化のサポート等を実施。今では自治会の自主運営に留まらず、住民主体で体操の会を週2回開催するなど、活気を取り戻しつつあります。

▶困窮世帯から学生まで幅広くフードバンクと連携支援

新型コロナの影響は困窮世帯や学生等にも大きな影響を与えています。当センターでは、フードバンクと連携し、食材や調味料などを地域や個人に届けることで誰も取り残さない支援につなげています。

また、困っている方を個人の問題だけに留めず、状況が重なれば誰もが直面する地域の課題と捉え検討する『地域ケア会議』を開催し、多様な専門職や団体組織、行政と連携し、共有と対応を行っています。

活動報告

▶寛容な地域—。認知症を受け入れる地域へ。

認知症の方に優しい地域とは誰に対しても優しい地域という考えのもと、認知症サポーター養成講座を地域住民はもとより、小中学校、警察学校、一般企業等、様々な場面で開催し、地域の応援者を増やしています。町内では小学生がランドセルに認知症理解者の証であるオレンジリングを装着し、毎日登下校を通じて地域の見守り活動を行ってくれています。

認知症の人に優しい町は、誰にとっても優しく住みやすい町なのだと思います。

▶安心と関心。意識して関心を切らないために。

安心を届けることはとても大切ですが、一方で関心を薄くしてしまう可能性もあります。

不安を煽り、関心を高めるのではなく、安心とともに意識して関心を持って頂けるように地域に必要な情報を発信し続けることが大切だと思っています。

これからも地域を奔走しながら、誰も取り残さない包摂的な支援を続けていきます。

▶コロナ禍での工夫…気にかけていることを伝える

コロナ下(禍)において、地域の活動も大きく制限されました。当たり前のようにあった地域のつながりも、意識しないと感じられないようになっていきました。

地域では感染症をきっかけにしたトラブルも多く、傷跡を残さない関わり方を学ぶ地域訪問講座を開催しました。

また、当センターではスピーカー付きの車両も保有していたことから、交流が減っている中での注意事項や自宅でできる運動の啓発、寂しさにつけ込んだ詐欺被害の防止啓発など、地域アナウンス巡回等も実施しました。

アナウンスが聞こえた住民の中にはベランダに出てきて手を振ってくれる方や、その場でスクワットを始める方など効果があったと感じたほか、後から『声が聴けて嬉しかった』と感想も多く届きました。

『気にかけている人が居ることを伝えていく』ことも大切な地域支援です。



細い坂道の多い地域



軽自動車でぎりぎりの町内(寄贈車両)



災害公営住宅での勉強会



コロナで傷つけない関わり方を学ぶ講座

活動報告



高齢者が少ないマンション群



居宅訪問での自立支援



警察学校での認知症サポーター養成講座



住民・郵便局なども参加する地域ケア会議



車が入らない町内の細い道



車載スピーカー車両
(コロナ禍で地域をアナウンス巡回)



見守りをしながら登下校する小学生



坂町地域包括支援センター職員

ケアプランデータ連携システムの活用による業務の効率化

広島県国民健康保険団体連合会

● ケアプランデータ連携システムとは

居宅介護支援事業所と介護サービス事業所の間で毎月やり取りされるケアプランの一部情報(予定・実績)をインターネット回線を利用してデータ連携を行うシステムです。

サービス提供票や居宅サービス計画書などをデータで送受信できるようになり、業務の負担軽減に繋がります。

厚生労働省が定めた標準仕様のフォーマットであれば、ベンダーを問わずデータ連携が可能となっており、現在お使いの介護ソフトを利用できます。

● データ連携で、作業時間の削減やコスト削減が期待できます

居宅介護支援事業所のケアマネジャーがサービス提供票(予定)を介護サービス事業所にFAX等で送り、介護サービス事業所は実績を記入してFAX等で返信している場合は、10人の利用者がいれば10回の送信と受信を行う必要があります。

ケアプランデータ連携システムを利用することで、事業所ごとにまとめて送信でき、データの取り込みも行えるため、記載時間や転記誤り等の削減を図ることができます。

また、これに伴う人件費や印刷費等の費用も削減できます。

※ 国保連合会が行う審査において、転記ミスによる居宅介護支援事業所の給付管理票と介護サービス事業所の介護給付費等請求明細書との不整合エラーは、全体エラーの約4割を占めています。

作業時間の削減

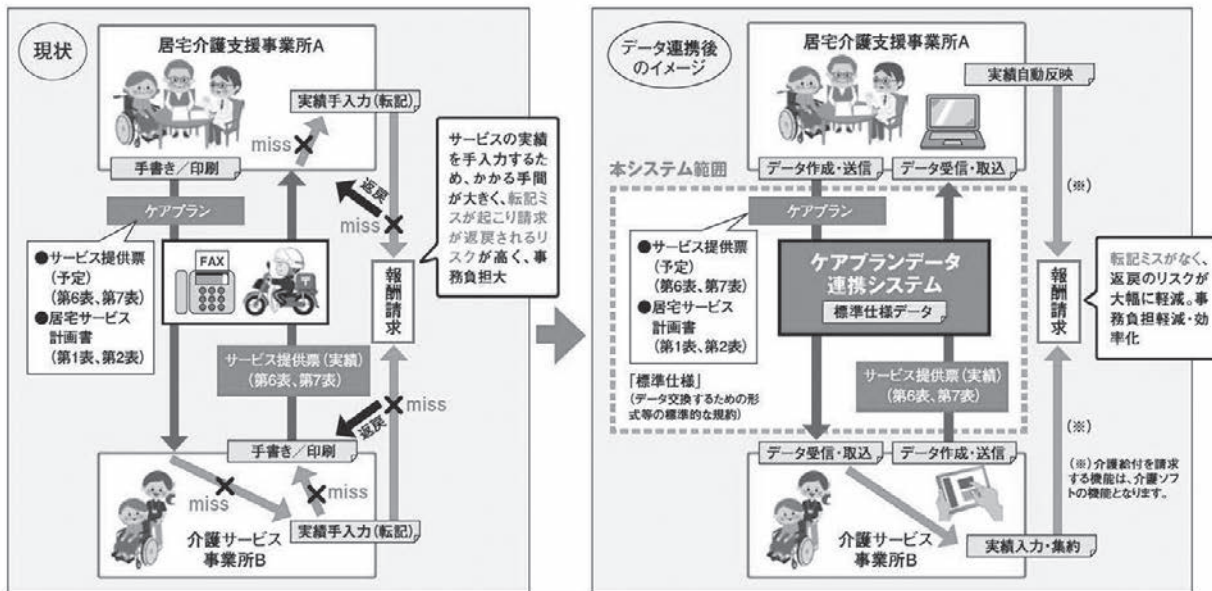
【期待できる削減効果例】

- 記載時間の削減
- 転記誤りの削減
- データ管理による文書量削減
- 介護従業者の負担軽減

【効率化による相乗効果例】

- 利用者支援にかかる時間増
- ケアの質の向上

提供票の共有にかかる時間が3分の1



コスト削減

【期待できる効果例】

事業所がケアプランを送付するために掛かる費用の削減が見込まれます。

- 人件費の削減 ■ 印刷費の削減 ■ 郵送費の削減
- 交通費の削減 ■ 通信費(FAX)の削減

(人件費削減を考慮した場合)
約81万6千円/年の削減
 ※1月あたり約6万8千円×12月

(人件費削減を考慮しない場合)
約7万2千円/年の削減
 ※1月あたり約6千円×12月

※調査研究のアンケート結果から試算した全国平均の見込み金額であり、削減費を確約するものではありません。

【コスト削減による相乗効果】

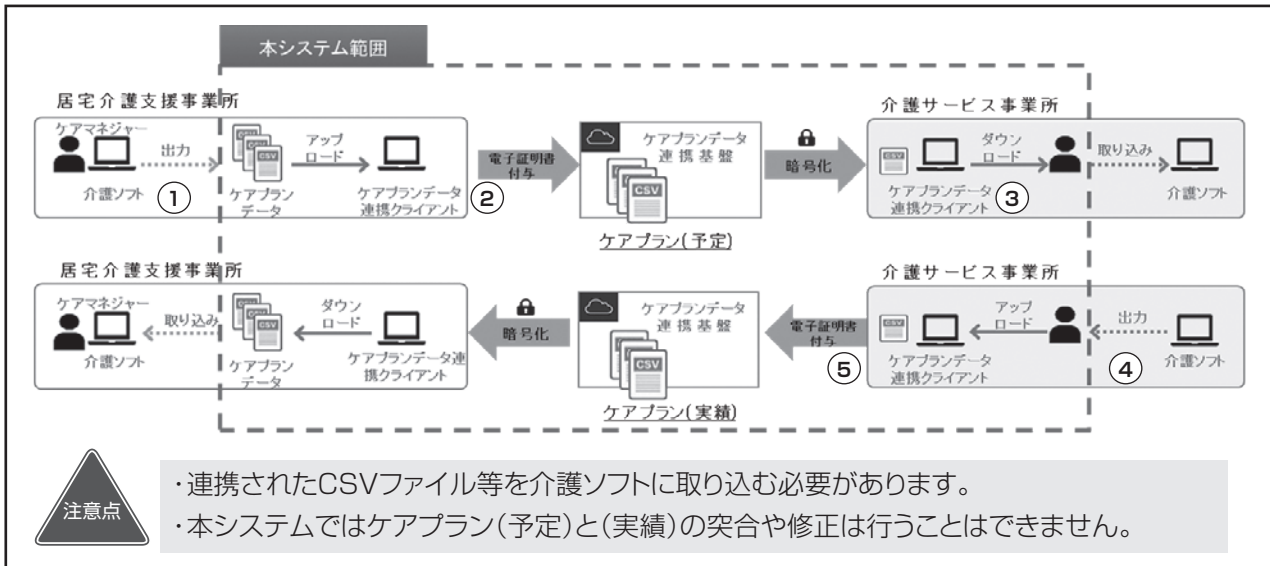
介護人材の新規確保

介護人材の定着率向上

事業所環境の維持費、
改善費の割当額の増加

● ケアプランデータ連携システムの業務フロー

- ① 居宅介護支援事業所のケアマネジャーが介護ソフトを使用して、ケアプランデータ(予定)を作成し、CSV方式でファイルを出力します。
- ② ①のファイルをケアプランデータ連携クライアントに取り込み、送信します。
- ③ 介護サービス事業所は、ケアプランデータ連携クライアントで、ファイルを受信し、受信したデータを介護ソフトに取り込みます。
- ④ 介護ソフトでケアプランに基づく実績を入力し、CSV方式でファイルを出力します。
- ⑤ ④のファイルをケアプランデータ連携クライアントに取り込み、送信します。



● ライセンス料

1事業所あたりのライセンス料は年間21,000円(消費税込み)

● ケアプランデータ連携システムをもっと知りたい

ケアプランデータ連携システムヘルプデスクサポートサイトにアクセス

- ・ で検索
- ・ または <https://www.careplan-renkei-support.jp/> を入力

私のまわりの輝きさん

まず、竹原市忠海地区についてお伝えしたいと思います。

忠海はそれぞれの年代で「同級生の会」が存続していることで、横の繋がりが大変強く、小さなことでも声を掛け合い、様々な情報共有ができています。

そんな横の繋がりが強い忠海の町で地域の皆さんと様々な活動を通して交流する機会が多い三次さんは、多忙な毎日の中でも、何か気になっている方の情報を聞かれたら、在宅介護支援センターに「様子を見に行ってみてあげて!」と情報提供して下さったり、「〇〇さんは元気になられたよ」と教えて下さったり、在宅介護支援センターと一緒に地域の方を見守ってくれている本当に頼れるお姉さんです。

三次さんは言います。「私は目立つことが嫌いなんよ」と。何か手伝ってと声をかけられて「自分でも役にたてるかなあ?」と考えているうちに、まわりの方に恵まれ助けられて、いつの間にか今があるそうです。忙しくて嫌になることはなく、どの活動もまわりの方に恵まれているからとても楽しいと話されるところが私の感動のポイントです。

竹原市在宅介護支援センター せいけい
大世戸 玲子



第12回の
輝きさんは



民生委員児童委員
三次 恵美子さん

今回の輝きさん“三次恵美子さん”は現在民生委員児童委員 7期目で、約20年地域の見守りや支援をしてくださっています。みんなが気軽に立ち寄れる集いの場があればいいなという思いから、地域の集会所で週2回サロンを開いています。脳トレ・カラオケ・体操やクラフト制作や折り紙で季節の行事に参加してくれる方に楽しんでもらっています。七夕やクリスマスには小学生も招待して世代間交流も楽しみのひとつです。

1年前、社会福祉協議会の人から子ども食堂の話がありました。児童委員を長くやっていることもあって、「遅刻が多い子は朝ごはんを食べていない子が多いな」と感じたり、共働きの家庭が増えて親が家を出たあと起きて、朝食を食べず通学する子どもを見てきたり、「高齢者には集いの場があるけど子どもにはないなあ…」など思っていたこともあり、声をかけた仲間と一緒にするのがすぐOKしてくれたので、3人で『子ども食堂いこい』を立ち上げました。

8/27(土)月1回開く『子ども食堂いこい』におじゃましてきました。

3人で始められたスタッフも今では8人です。地域の農場から野菜の寄付もあったりして「みんなでやったら楽しいけんできるんよ」とスタッフの皆さんの笑顔がとても印象的でした。スタッフに「三次さんはどんな人ですか?」と聞くと「忠海のお母さん!」「男気のあるお母さん!」と、とにかく皆さんに頼りにされている方なんだなという返事が返ってきました。

「人と関わることが元気の活力になる」「私は本当に人に恵まれとるからいろんなことができるんよ」と、人との出逢いに感謝されている言葉ばかり口にされる三次さんだからこそ、何か始めようと思った時一緒にするよと言ってくれる方がまわりに集まり、「ついて行こう」と頼りにされているんだろうなと感じました。

三次さんはこの子ども食堂をゆくゆくは高齢者の方も対象にして、地域の色々な世代の人が交流できる場にしたいとうれしい計画を話して下さいました。

きっと以前にも三次さんのような地域の輝きさんがいて、横の繋がりが強い竹原市忠海地区ができ、これからも続いていくんだろうなと感じました。

広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会広報委員 丸光 陽子



生活支援体制整備事業研修会

「生活支援体制整備事業の本質はどこに!?!」 「地域は“人”地域にある支え合いを紐解く!」

令和5年7月25日に行われた令和5年度広島県地域包括・在宅介護支援センター協議会主催の研修「生活支援体制整備事業の本質はどこに」を受講しました。講師は、一般社団法人コミュニティーネットハピネス代表理事土屋幸己様と広島県済生会坂町地域包括支援センターセンター長で、坂町の生活支援コーディネーターでもある木下健一様でした。

初めに生活支援体制整備事業とは、少子高齢化が進む日本では、2040年には1人の高齢者を1.5人の現役世代が支えることとなります。これは同時に社会保障費の増大、医療や介護、年金、保育の費用が増大することを示しています。この結果として生活支援体制整備事業は平成27年、介護保険事業の地域支援事業に位置付けられる事になりました。事業の大きな目的は、介護保険非該当であるが、何らかの支援が必要な高齢者や要支援レベルの軽度者の自立支援です。その為には個別の視点が大切です。包括支援センターは個別支援を実施する中で、不足しているインフォーマルサービスを把握しています。その情報を持っている包括が生活支援コーディネーター(以下、SC)としっかり連携する事が必要です。

今回の研修では、従前の生活支援代行や機能訓練的な介護要望のみでは支援自体が健康寿命の延伸に繋がっていないことや、生活全般を支援するには、地域の居場所や生活支援ボランティアを活用して広く支援して行く必要があるという事、インフォーマルサービスはSCや協議体を配置しながら、住民主体で取り組んでいく事が大切であるという事を学びました。

また、高齢者の自立支援のためにプランをたてるケアマネが安易にフォーマルサービスに結び付けていないか、それでは本人の持っている「力」を弱める事になってしまうという視点も大切であるという事も改めて確認した次第です。

「地域は“人”地域にある支え合いを紐解く」とは、場所があれば人が繋がるきっかけが生まれます。困った時は御互い様の支え合を考える事が必要です。支え上手と支えられ上手は車の両輪に例えられます。双方を増やす努力が必要です。

近代になるまで、日本には長屋文化という、支え合いのヒントとなるものがありました。互いに関心を持ち馴染みの安心感がそこにはあったようです。

また、ボランティア活動にも言及し、ボランティア活動は介護予防に効果的である事や、他者に強要されて行うのではなく自発的に好きなことを行う時の疲れは「心地よい」に繋がります。

この研修では核家族化した現在では、隣人についてでさえも無関心な状況下で、人間関係をどう築くか難しさも感じますが、人間同士が繋がって生きることを再確認する研修ではなかったかと思えます。

今後は生活支援コーディネーターとの連携を、もっと密に図る事も必要であることを改めて感じました。

福山市地域包括支援センター南本庄 千日 貴恵

～「これから手帳」を使用した大学4年生の感想～

本協議会の研修委員でもあり、本号の「活動報告」でご執筆くださった、坂町地域包括支援センターの木下センター長は、広島文教大学で非常勤講師としても活躍されています。

大学4年生の授業の中で、「これから手帳」を実際に記載してみた後に『当事者として書いてみた感想』と『支援者としての活用方法』について考察する講義をされました。学生の方たちの声をお届けします…♪

書いてみた感想

- ◆ 自分でも改めて考えないと気づかないことが多くてびっくりした。
- ◆ 運動を全く意識的にやっていないことに気付いた…
- ◆ 自分は頼られると嬉しいのに、人には頼れない、遠慮してしまっていることに気付けた。頼れる存在を意識しようと思った。
- ◆ この質問の順番だから書きやすかった。はじめに『これからやりたいことは?』と聞かれても書けなかったと思う。手帳は書きやすかった。
- ◆ 見せる人と見られたくない人とがはっきりする。知らない人には見せたくない。
- ◆ 他の人が私の事を『こんな人だったの?』と引かれることもあるかもしれない…心配。



手帳の活用方法

- 希望が『無い』のと『言えない』のは違うので、支援者として手帳を活用してその人らしさを支える支援につなげたい。
- 施設入所時に書いてもらったり、アセスメント時に実施すると良いと思った。
- 手帳を持っている人が居たら、必要時には見せて頂けるか伺う。
- 多くの人に手帳を知ってもらいたい。就職したらそこでも紹介したい。
- 支援をする時の貴重な情報源になる。毎日は無理でも特別な一日をつくってさしあげるヒントになる。
- お薬手帳と同じように携帯する感じに浸透すると支援の質の向上が期待できる。

講義で使ってみて、
『高齢者』だけでなく、全世代で活用できる!
と私も感じました!



編集後記

- ▶ 荒木 和美 (広報委員長).....
新しいホームページを使った情報発信中です。ぜひ、ご覧ください。
- ▶ 永見 悠騎 (広報副委員長)
今年広報委員としてホームページを無事リニューアルできてホッとしております。
これからも会員みなさまのご意見を取り入れながらより良いホームページをみんなで作り上げていけたらと思っております。
- ▶ 高森 裕美.....
離れたところに住む子どもや孫と中秋の名月を同じ時間に見上げました。「きれいじゃな」と語れる人がいることの幸せ。次の中秋の満月は7年後。また、同じ感動を一緒に味わえるようなこれからの過ごし方ができればいいなとつくづく感じました。
- ▶ 長谷川 忠弘.....
人生の半分を折り返し大山に登りました。曇って景色は見えませんでした。歳を感じることができました。日頃から運動は大事ですね。
- ▶ 丸光 陽子.....
広報委員っぱい!と思ひながら、輝きさんの取材に行かせてもらいました。あまり知らない地域ではじめましての方と色々お話しさせてもらってとても新鮮でした。
- ▶ 坂本 敬行.....
芸術の秋。現在、若手プロの活躍で将棋が非常に注目されています。今回の記事が発行される頃には、史上初のタイトル8冠達成がすでにニュースになっているかもしれませんね。

～自宅療養パックの活用に関するアンケート結果について～

広島県からの自宅療養パック(食料品・衛生品)の譲渡につきまして、お申込みをいただいた会員の皆様に、活用方法についてアンケートを実施しました。

(回答数:29会員/申込43会員)※複数選択可

- 利用者へ配布..... 19会員(65.5%)
- 生活困窮者へ配布..... 17会員(58.6%)
- センター内で活用..... 14会員(48.3%)
- 地域のサロンで活用..... 9会員(31.0%)
- 子ども食堂で活用..... 1会員(3.4%)
- その他..... 4会員(13.8%)

- 相談者が栄養不良時、災害時の利用
- 居宅介護支援事業所にも案内し、必要な方がおられたら配布している。
・介護サービスを利用していない方で定期的に訪問する際に、持参している。
- 地域の介護保険関係事業所に配布
- 総合相談業務で関わった衰弱した高齢者へ配布

アンケートへのご協力
ありがとうございました。

